

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 11 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	24.7	104.8 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	33.7	8.09 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	33.2	0.23 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.07 vol%

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

[3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況]

- ・H25/11/16 8:10 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ(11/16 8:10 時点):気温 5.8、湿度 83.7%)
プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H25/11/16 16:20 頃 湯気が確認されなくなったことをカメラにて確認。(気象データ(11/16 16:20 時点):気温 11.5、湿度 58.3%) プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H25/11/17 7:40 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ(11/17 7:40 時点):気温 9.8、湿度 90.9%)
プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H25/11/17 16:00 頃 湯気が確認されなくなったことをカメラにて確認。(気象データ(11/17 16:00 時点):気温 15.4、湿度 61.7%) プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。
- ・H25/11/18 7:52 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ(11/18 7:50 時点):気温 10.8、湿度 96.5%)
プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (11/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.0
2号機	循環冷却システム	運転中	15.2
3号機	循環冷却システム	運転中	14.6
4号機	循環冷却システム	運転中	21

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘビドラジンの注入を適宜実施。

- ・H25/11/18 15:18 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を開始。なお、燃料取り出し作業は平成 26 年末頃まで行う予定。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	11/12 10:15 ~ 11/16 9:34 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	11/ 6 9:27 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (11/18 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	A系・C系 ホット試験中

*フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

【多核種除去設備(ALPS) ホット試験の状況】

A系・・・11/8 14:01 C系で発生した「工程異常」の警報発生による停止の再発防止対策の水平展開として、制御系の改造を行うため、11/6 8:40 に停止したが改造が完了したことから、運転(ホット試験)を再開。

B系・・・8/8 12:25～ 腐食防止対策を実施するため、停止中。11月21日を目処にホット試験を再開予定。

C系・・・11/3 5:08～ 腐食対策有効性確認のため停止中。

11/18 10:17 腐食対策の有効性を確認したため、ホット試験を再開。

< 5. その他 >

・H25/10/21 13:50～ 6号機において、燃料集合体を原子炉内から使用済燃料プールへ移動させる作業を実施中。

・H25/11/14 10:53～ 2号機側のモバイル式処理設備について、本格処理(連続)運転を開始。

H25/11/15 12:35～ 3号機側のモバイル式処理設備について、本格処理(連続)運転を開始。

・H25/11/15 8:50 頃 汚染水タンクパトロールにおいて、G6南エリアのG6-C3タンク、下から2段目のフランジ部より水の滴下があることを協力企業作業員が発見。

現場を詳細確認し、タンク下側から2段目の縦継ぎ手フランジのボルト部(14本中下から9本目)より水がにじんでいることを確認。

その後、当該縦継ぎ手フランジのボルト(漏えい箇所のボルトを含む計7本)の増し締めを実施し、滴下が停止したことを確認。当該タンクについて、タンク上部より水位の測定を実施したところ、タンク天板より52cmの位置にあり、隣接しているG6-C2タンクと同じ値であることを確認。当該滴下箇所の線量当量率の測定結果は以下の通り。

< 5cm 距離 > 35mSv/h (+ 線(70μm線量当量率))

< 5cm 距離 > 0.03mSv/h(線)

G6-C3タンクフランジ部からの滴下について、当該タンクの設置されている、G6南タンクエリア堰内溜まり水の核種分析結果は以下の通り。

・セシウム 134: 検出限界値未満(検出限界値: 13 Bq/L)

・セシウム 137: 検出限界値未満(検出限界値: 18 Bq/L)

・全ベータ: 5200 Bq/L

当該エリア堰内溜まり水については、今後移送を計画。

12:50 頃 G6タンクエリアを確認中の原子力保安検査官が、G6南タンクエリア堰ドレン弁(G6-C8タンクの北側)近傍ににじみがあり、ドレン弁出口に若干の水溜まりがあることを発見。また、G6南タンクエリアの堰ドレン弁(G6-C8タンクの北側)近傍において確認されたにじみについて、今後、当該エリアの堰の止水処理を実施予定。

15:59～16:50 G6南タンクエリア堰内溜まり水をG3西エリアD群タンクへ移送。なお、G6-C3タンク内水の全ベータ放射能濃度は、 7.8×10^7 Bq/L、堰内溜まり水の全ベータ放射能濃度が5200 Bq/Lであり、当該タンクエリア堰内水量が約 1.63×10^5 リットルであることから、当該タンクからの漏えい量については、約11リットルと評価。

・H25/11/18 1～4号機取水口付近に設置したシルトフェンスの開閉について、海側遮水壁工事における資機材搬入のため、11:00(開)～11:20(閉)と12:25(開)～12:40(閉)に実施。

・H25/11/18 3号機原子炉建屋1階南西エリアについて無人重機による撤去作業を8/23に完了。3号機原子炉建屋1階南西エリア以外のガレキ撤去に向けた落下ガレキ養生材の撤去作業の間に1号機原子炉建屋1階の無人重機によるガレキ撤去を10/25に完了。11/18、3号機原子炉建屋1階南西エリア以外(西、北、南東エリア)についてガレキ撤去作業を開始。

G6-C3タンク内水の全ベータ放射能濃度を追記しました。

【H4エリアタンク・B南エリアからの水の漏えい関連】

<最新のパトロール実績(11/15～17)>

- ・11/15～17の汚染水タンクパトロール結果については以下の通り。
- ・上記G6南エリア以外に高線量当量率箇所(+ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認が出来ていない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・サーモグラフィーによる水位確認(11/14～16撮影分の分析結果)により、タンク水位に異常がないことを確認。

<堰内水の移送>

- ・11/14 10:36～12:03にかけて、H6エリアの堰内溜まり水を地下貯水槽 No.7へ移送。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・11/14～16採取分については、前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・11/15～17採取分については、前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
11/15 0:00時点で約5,647m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・11/17 1～4号機タービン建屋東側の地下水観測孔 No.1-9の全ベータについて、11月14日に採取した値76Bq/Lに比べ、2,100Bq/Lと高い値を確認。当該箇所(No.1-9)は、1,2号機間の地盤改良実施箇所の外側(海側)の観測孔であり、11月11日に採取した地盤改良実施箇所の内側(陸側)の観測孔(No.1-8)の分析結果に有意な変動はなく、地下水位も地盤改良実施箇所の上端より低い値となっている。また、同日採取した1,2号機取水口間の表層および下層、1～4号機取水口内北側の海水についても有意な変動は確認されていない。その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1の汚染範囲調査開始。
- ・H25/10/23～ 地下貯水槽 No.6において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/15～ 地下貯水槽 No.5において浮き上がり対策を開始。
- ・H25/11/19～ 地下貯水槽 No.1において浮き上がり対策を開始予定。

以上